

女性ならではのホスピタリティ精神を発信

弘法大師の母が晩年を過ごした九度山町の世界遺産・慈尊院は、「女人高野」として知られ、今も全国からの参拝者が絶えない。この地を訪れた人々と地元の人々が交流することで世界遺産をより良く理解してもらいたいと作られたのが、商店街にある「真田いこい茶屋」。代表の榎本美保子さん（66歳）ら40〜80歳代の女性15人が今年6月、観光客の休憩所と地元住民の交流の場として空き店舗を再生した。



九度山は、関ヶ原の戦いに敗れた真田幸村が父昌幸とともに隠れ住んだ里。真田庵は、真田父子隠棲の屋敷跡だ。

九度山町から高野山町石道を約24キロ歩いて高野山に登る参詣者が少しずつ増えている。榎本さんは、高野山への観光客が九度山に車を駐車して、環境にやさしい電車や徒歩で世界遺産を楽しんでほしいと考えている。「そのためにも、人々が立ち寄りたくなるような魅力ある拠点を作りたい。1人では無理でも仲間がいればやれます」と底抜けに明るい。町ゆかりの真田幸村グッズや地元産の野菜などのお土産物が並ぶ店内では、地域住民や観光客がメンバーとおしゃべりに夢中になることも。榎本さんらは、真田庵など地域の名所を楽しんでもらうため、観光客をもてなすホスピタリティの心が大切と考えている。



真田いこい茶屋
住所／和歌山県九度山町九度山1722-1
電話／090-5906-7689



前列中央が代表の榎本美保子さん。仲間たちと元気いっぱい旅人を迎え入れる。

あるがままの姿で土と共に生きる

熊野古道・中辺路の中心部に位置する田辺市中辺路町。自然の生命が息づく豊かな緑に見守られ、土と共に暮らす人がいる。中峯幸美さん（27歳）。生まれ故郷のこの土地で畑を耕し、自然の恩恵を受けて育った無農薬野菜やお米を、身体に優しいマクロビオティックにして楽しませてくれる。

に力を入れて取り組んだ。その後美味しさを多くの人に知ってもらったため、畑横の古民家を大改装してランチとカフェのお店を2007年11月にオープン。「コンセプトは、料理も育て方も、ありのままに自然に近い状態で、逆らって失敗したこともありませうけどね（笑）。でもその一つひとつから、生き方のものもありのままでもいいのだと、学んでいます」。すべてをあるがままに。今の自分を受け入れ癒してくれる場所が、世界遺産の中にある。



写真左がオーナーの中峯幸美さん。中峯さんの生き方と熊野の自然に魅せられて山川幸子さん（24歳）も今年1月、スタッフとして埼玉から移住。もともとスローライフに憧れをもち、朴の元スタッフの友達を介して中辺路に。



自然のエネルギーを体と心に取り入れるマクロビオティック。採れたて野菜の玄米定食や玄米豆カレーのほか、毎日焼上げる天然酵母パンの香りが、店内を優しく包む。



田舎ごはんカフェ 朴-BOCU-
住所／和歌山県田辺市中辺路町近露203
電話／0739-65-0694

世界遺産と暮らす

Human



最近宗教舞踊を修行中の長津隆心さん。「いつか教えを伝える表現者として、ダンスや舞踊の垣根を越えたい世界を広げたいと思います」

表現者が伝える心と身体の開放

コンテンポラリーダンスというのをご存知だろうか。前衛舞踊の礎を確立した踊りのことで、捉え方は人それぞれ、表現方法もさまざま。その中に心の開放を見た人がいる。恵光院の長津隆心さん（28歳）。弘法大師のお膝元・高野山で、ダンサーから僧侶へと異例の転身を遂げた。

出身は東京都。東京学芸大学を卒業後、京都造形芸術大学の舞台芸術学科に編入。そこでコンテンポラリーダンスと出会い、独自の発想と表現を研究。卒業後、就職か、表現者の道を進むのかで悩んでいた時、友達から高野山でのアルバイトに誘われる。「僧侶になるつもりはなかったが、それがきっかけとなる。26歳で入山し、1カ月後には剃髪をして得度式。隆心という僧名を授かり、加行を行い阿闍梨となる。「即身成仏の思想と



教えを伝える阿闍梨としての隆心さんの朝は、早朝のおつとめから。恵光院は宿坊でもあり、高野山参拝者のおもてなしも行う。特に山内でも外国人の宿泊率が高く、時には英語で対応。その物腰の柔らかさと身のこなしは、万国共通の美しさだ。

高野山 恵光院
住所／和歌山県伊都郡高野町高野山497
電話／0736-56-2514



修行は心と体の開放、自分を高めて内なる仏（自分）を輝かせること。自身の心と体を開け放つのはダンスも一緒。すべてが一つに繋がったからこそ、迷いなく仏の道に。次は人生をかけて、教えを心と体で表現できればと思っています」。今も生き続ける大師の教えが、悟りの表現者によって新しい世代に届く。



熊野独特の地形と温暖多雨な気候が生み出す雲海は、霧の郷ならではの幻想的な風景。



熊野古道の宿 霧の郷 たかはら
住所／和歌山県田辺市中辺路町高原826
電話／0739-64-1900



写真右が主人の小竹治安さん。頼もしい宿の母は、料理人の森本邦恵さん（64歳）。

優しさともぐもり伝える天空の守り人

「高原神社のあるこの地は、古来から神聖な場所。標高300mの天空、雲海の彼方に浮かぶ果無山脈に、昔の人は神々を見たのでしょう」。まさにここは、熊野の森に佇む天空の宿。オープンして1年余り、海外から訪れる参詣者も迎え入れる。

宿の主人・小竹治安さん（38歳）は、海外滞在歴が長く、スペインでも生活していた。「熊野古道と同じく、サントリアゴ・デ・コンポステーラが、道の世界遺産」となっているスペインとは自然の豊かさ、人の温かさといった

共通点が多いと語る。生産者から直接届く野菜や果物、温泉の加温に使う間伐材など、出来る限りを地元で調達するのも小竹さん流。ワインやコーヒー豆もオーガニックで、心と体の優しさを追求。「生活の知恵そのものがエコロジーであり、人と人が自然と助け合うように循環しているのです」。その純粋さこそが、熊野の魅力であり世界遺産だと小竹さん。目まぐるしく移り行く社会の中で、いつまでも変わらない熊野の姿をしっかりと胸にとどめておきたい。